平成２５年度研究成果中間報告書《平成 25・26 年度教育課程研究指定校事業》

| 道府県・指定都市番号 | ２８ | 都道府県・指定都市名 | 兵庫県 |
|---|---|---|---|

| ふりがな<br>**幼稚園**（園児数） | こくりつだいがくほうじんひょうごきょういくだいがくふぞくようちえん<br>国立大学法人兵庫教育大学附属幼稚園　（129 名） |
|---|---|

（本研究にかかる問い合わせ先）
所在地：兵庫県加東市山国 2013-4
電話： 0795-40-2227　　ホームページの URL：http://www.hyogo-u.ac.jp/kinder/

**【研究成果のポイント】**
○研究課題番号：１幼稚園
○研究のキーワード：
・心の揺れ動きの読み取り
・「道徳性・規範意識の芽生えを培うための必要な経験」
・「協同性の育ちと関連した道徳性・規範意識の芽生えを培う視点」
○研究成果のポイント
・道徳性・規範意識の芽生えを培う上でも大切な，「自分の気持ちを調整する力」「折り合いを付ける力」など「見えにくい力」を，子どもの姿から読み取り明らかにする。
・協同性の育ちと道徳性・規範意識の芽生えに関する発達の道筋を明らかにする。
・道徳性・規範意識の芽生えという見えにくい育ちを視覚化し，3 歳児，4 歳児，5 歳児と発達の見通しをたてた指導計画を作成する。

**【研究の目的，研究内容】**
（１）研究主題

| 協同性を育て道徳性・規範意識の芽生えを培う指導の在り方 |
|---|

（２）研究主題設定の理由
近年，子どもの道徳性・規範意識や自己調整力が十分に育っていないことが問題とされている。幼稚園教育においては，このような育ちの基盤づくりを行い，幼児期の育ちを小学校以降の教育につなげていくことが求められており，本園においても，取り組むべき重要な課題のひとつであると考える。
幼児は遊びを通して友達との関わりを深め，互いに思いを主張し，相手と折り合いを付けながら遊ぶ経験を重ねていくことを通して，自分の気持ちを調整することの必要性を自然と感じ取り周囲との関わりを続けていくようになると考えられる。また，主体的な遊びの中で，ルールを守って楽しく遊ぼうとする気持ちや，共通の目的に向かって遊んでいる仲間で合意をしながらルールをつくり出そうとする活動も生まれてくる。こうした体験の積み重ねが道徳性や規範意識の芽生えを培っていき，学級での活動や他の様々な生活場面にもつながりをもってくると考えられる。このような観点から，幼児の発達の姿を見通し，協同性を育て，道徳性や規範意識の芽生えを培う遊びの環境の構成や場面に応じた教師の援助といった指導方法の在り方を検討していくことは重要な課題と言える。
以上のことから，本研究においては，本園３年保育の中で，小学校教育につながる協同性の育ちと道徳性や規範意識の芽生えに関する発達の道筋を明らかにするとともに，幼児の発達に沿った指導の在り方を確立していくことを目的とする。
（３）研究体制
・研究主任を中心として全教員が参加する園内の研究体制で実施する。
・兵庫教育大学幼年教育コース教員の保育参観・研修の協力を得ながら研究を進める。
（４）１年間の主な取組の経過

| | |
|---|---|
| 平 | ○研究主題「協同性」と「道徳性・規範意識の芽生え」の関連性や研究方法，推 |

| | |
|---|---|
| 成<br>25<br>年<br>度 | 進等についての共通理解<br>○実践記録の集積と分析<br>○「道徳性・規範意識の芽生え」に必要な経験の把握<br>○年間指導計画の見直しと改善 |

（５）具体的な研究内容，方法，研究を進める上での工夫点等

○　先行研究，幼稚園教育要領や幼稚園教育要領解説，及び，本園の研究テーマ「子どもの育ちにとって意味ある環境を考える－人とのかかわりに視点をあててー」における「協同性」の捉えから，本園が大切にしたい「道徳性・規範意識の芽生え」の育ちの視点を考える。

○　教師一人一人の価値観（保育観）から，道徳性・規範意識につながると思われる幼児の姿の事例を収集し，その芽生えの過程の姿を分析する中で，幼児期にふさわしい必要な経験について共通理解する。

○　上記のことを踏まえ，本園の年間指導計画における「人との関わり」や「道徳性・規範意識の芽生え」の位置付けを見直し，その育ちに向けた教師の援助や環境の構成について改善を図るようにする。

**【研究成果とその意義等】**

（１）研究成果

・事例収集し，分析を通して，「視点（教師が育てたいこと)」「経験（幼稚園生活の中で幼児に必要なこと)」を導き出し，それを年間指導計画に組み入れ，視覚化するという研究の方向性が確立した。

・実際の保育，子供の姿から，「人との関わりに必要な経験」「道徳性・規範意識の芽生えを培うために必要な経験」を考えることができた。

・今年度，事例収集した中で，見えてきた「道徳性・規範意識の芽生えを培うために必要な経験」（一部抜粋）

| 3歳児 | 4歳児 | 5歳児 |
|---|---|---|
| ・自分の好きな場を選べる<br>・自分の思いが出せる場がある<br>・自分のしたいことがかなう場がある<br>・自分の思う通りにいかずに困る | ・安心できる友達と一緒に過ごす心地よさを感じる<br>・言葉にできない思いを別の方法で発散させる<br>・自分とは違う友達の思いを受け入れる | ・共通のイメージをもって友達と遊ぶ<br>・自分の思いや考えを出しながら遊ぶ<br>・異年齢児の行動を客観的に見て，知っていることや思っていることを伝える。 |

（２）研究成果の意義等

・幼稚園教育は「見えにくい教育」「後伸びする教育」と言われている。本研究で，道徳性・規範意識の芽生えという見えにくい育ちを3歳児，4歳児，5歳児と発達の見通しをもち指導計画を作成し視覚化することは，心の揺れ動きの中で育っていく力（「見えにくい教育」「後伸びする教育」）の把握や評価，小学校教育との接続の在り方等について明らかになるとともに，保護者や地域へ幼児期の教育への理解を深めることにもつながると考える。

（３）研究２年目に向けての課題と改善

・引き続き，事例や週案から「人との関わりに必要な経験」「道徳性・規範意識の芽生えを培うために必要な経験」を洗い出し，教師間で検討し，整理する。その中で兵庫教育大学附属幼稚園の「協同性の育ちと関連した道徳性・規範意識の芽生えを培う視点」を明らかにする。

・整理した「人との関わりに必要な経験」「道徳性・規範意識の芽生えを培うために必要な経験」を３年間の指導計画の中に取り入れ，必要な援助，環境構成を考える。

・「人との関わり，道徳性・規範意識の芽生えを培うための必要な経験」「協同性の育ちと関連した道徳性・規範意識の芽生えを培う視点」から，幼児の育ちを評価する方法を考える。